

## とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設番号	
施設名	杉ノ子第二保育園
施設所在地	福生市南田園 3-4-2
法人名	社会福祉法人志芳福祉会

### 1. 活動のテーマ

#### <テーマ>

感触

#### <テーマの設定理由>

1歳児は身の回りの物に直接触れながら、五感を通じて世界を感じ取り、理解を深めていく時期です。特に手や指先を使って『触れる』『握る』『つまむ』といった動作を通じて感触の違いに気がつき、興味や関心を広げていきます。またこの時期の子どもたちは言葉での表現が未熟なため、感触遊びは言葉に代わる表現手段となり、驚きや不思議さ、嬉しさなどの感情を表現できる大切な活動でもあります。繰り返し感触を楽しむ中で、素材への関心を深めたりするなど、個々の気づきや発見が自然と広がっていくことから、『感触』をテーマにしました。

### 2. 活動スケジュール

第一回目 ミュージックパッド  
第二回目 カンショク（平均台）  
第三回目 ウォーターマット  
第四回目 泥  
第五回目 砂  
第六回目 砂と光

## ○第一回 ミュージックパッド

### 3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

・ミュージックパッド(8個) ・もも組保育室

### 4. 探究活動の実践

<活動の内容>



屈伸して音を鳴らして楽しむ様子



一人の子が壁際にパッドを持って行き、壁に寄りかかる事で音が鳴らしやすいことに気づき、皆で真似て壁際で音を鳴らして楽しんでいた。

### 5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

- ・最初は個々に抱え込んでいただけであったが、女兒が上に乗ると音が出たことで“どこから音が出ているんだ?!”とみんなが探究活動が始まったようだった。
- ・乗るだけでは連続して音が鳴らないので、どんな動きをしたら音が鳴るのかと探求活動に発展していた。
- ・二つ並べ、足を交互に動かすことで連続して音が鳴ることに気付いた男児がいた。
- ・パッドの上は狭いため、バランスをとるため壁沿いにパッドを置き、寄りかかり屈伸して連続で音を鳴らす姿が見られた。
- ・自分で立ち上がることができない低月齢児もパッドを叩いたり、保育士に“立ってみたい”と手を引っ張ったりしてアピールし、パッドに立てたことに嬉しそうな笑顔が見られた。
- ・使い方を説明しなくても、子どもたちが自分で音が鳴る方法を見つけている様子が見られた。

## ○第二回 カンショク

### 3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

・カンショク(平均台4～5個) ・ホール of 舞台の上、緑のパーテーションを使用し落ち着いて探求できる環境を作る。



### 4. 探究活動の実践<活動の内容>



「これなに？」と乗ったり触れたりしながらカンショクを楽しんでいた。



全部並べて乗る

### 5. 振り返り

#### <振り返りで得た気づき>

- ・初めて見る平均台に興味を持ち、目を輝かせ遊び始める姿が見られた。
- ・すぐに飽きてしまい、その後全く興味を示さなかった子もいた。
- ・前回のミュージックパッドのことを覚えていたのか、屈伸をして楽しむ様子が見られた。音が出ないとわかると、別の動きを楽しむ様子が見られた。
- ・手で感触を楽しむ姿が見られた。
- ・二本の平均台に片足ずつ足を乗せ楽しむ様子が見られた。
- ・数本の平均台を運び並べて感触を楽しむ様子が見られた。
- ・月齢の高い子は色々興味を持ち何度も繰り返し感触を楽しんでいたが、月齢の低い子はしばらくその場の雰囲気の様子を見ていた。その後友達の遊んでいる様子を見ながら、興味を持ち始め後半になり動き出す様子が見られた。

### ○第三回目 ウォーターマット

#### 3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

- ・布団圧縮袋2枚 ・水 ・テーブルクロス2枚 ・養生テープ ・パーテーション
- ・布団圧縮袋の中に水を入れ、ウォーターマットを作る。
- ・水が漏れてしまった時のために、ウォーターマットの下にテーブルクロスを敷く。
- ・ホール端を緑のパーテーションを使用して囲み、落ち着いて探求できる環境を作る。



#### 4. 探究活動の実践 <活動の内容>



一か所にかたまり感触を楽しんでいた。



気泡に気づき、みんなで触れていた。



マットをもんで水の感触を楽しんでいた。



冷たさが心地よいのか寝転がっていた。

## 5.振り返り

- ・探究を経験してきた子はすぐにウォーターマットの上に乗ったり、寝そべったりして感触を確かめていた。初めて探究を行った子は暫く他の子の様子見ている、探究活動の経験の差を感じた。
- ・手でもんだり、叩いたりしながら水の動く感触を確かめたり、寝転んで水の冷たさを気持ちよさそうに感じていた。
- ・一つのウォーターマットにしか集まらず、4人で同じウォーターマットを行き来していた。水の圧や同じ活動を共有して楽しんでいたように感じた。
- ・すぐに男児がウォーターマットに乗り、足踏みをして感触を確かめ、友達同士で声を出して笑い合っていた。
- ・マットをもんで中の水が波打つ様子に気づき、感触を楽しんでいた。
- ・女兒が気泡を見つけ、不思議そうに手で触れていた。
- ・寝転んで泳ぐ仕草をして楽しんでいた。
- ・集中力が続かず、早めに飽きてしまう。事前の活動や順番などが原因と感じた。また、他の事に興味が行ってしまう環境が良くなかった。

## ○第四回 泥

### 3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

- ・山砂 ・ブルーシート ・ホース ・タライ ・水遊び用玩具 ・サークル
- ・塩ビパイプ
- ・砂場前にブルーシートを設置し、シートの上に山砂を置く。
- ・砂にかかるように塩ビパイプを置いて水を流して噴水のようにする。
- ・タライの中に水を張り、近くに水遊び用玩具を用意。



### 4. 探究活動の実践〈活動の内容〉

- ・砂、泥、水の感触を味わい、手足で触れて探究する。
- ・9:50～10:50



・流れてきた泥水の感触を足で味わっている。



・川を作ったり、型はめで形を作って楽しんでいる。



砂の山に登り、足がうまってしまう感触を味わっている。

## 5.振り返り

- ・塩ビパイプの噴水の水が子どもたちにとって壁のようになっていて山に入りづらかった。
- ・初めはつま先や足横で歩く姿が見られた。
- ・水を張ったタイヤが前にあって水遊びがメインになってしまっていた。
- ・水鉄砲など水遊びの玩具はもっと少なくてよかった。
- ・滑り台が奥の方に合って分かりづらかった。
- ・砂と泥の間で感触の違いに気づいたのか「あ」と声を出す子がいた。
- ・一度噴水を止めてみたら山に登ってみる姿がもっと見られたかもしれない。
- ・型はめに泥を入れてみるとアイスのような形になって喜ぶ姿が見られた。
- ・山を掘ってトンネルを作る園児がいた。
- ・泥にできた白い泡を見つけツンツンと触ってみる姿が見られた。
- ・全体的に玩具がもっと少なくてよかった。
- ・山に川を作って水を流したりしていたが、噴水の水に興味がいってしまっていた。
- ・山が高くて保育者の介助なしだと登れない子が多かったため、もう一つ小さい山があってもよかった。
- ・感触の違いに気づいていたため、普段からもっと裸足で遊ぶ機会を増やしていきたい。

## ○第五回 砂

### 3.活動のために準備した素材や道具、環境の設定

- ・山砂
- ・パーテーション



### 4.探究活動実践〈活動の内容〉



・砂山の上に乗り、手足で感触を楽しむ。



・砂の中の石を探している。



・砂の山に「高いよ」と言いながら何度も上り下りをしていた。



・土まみれの手を保育者に嬉しそうに見せていた。

## 5.振り返り

- ・始めは砂山よりも砂場に行き、砂場の砂の感触を手足で楽しんでいた。
  - ・砂場の砂を上から落とし、砂が落ちる様子を嬉しそうに見ていた。
- 他の子も真似して砂を落とし始めると、そのうちに砂を投げてしまう子が出てきた。
- ・「山だ」と一人の女の子が登ると、周りの子たちが気づいて上り下りを楽しむようになる。お尻で滑ったりする子もいた。
  - ・女の子二人は砂山の下で砂を掘ったり石を探したり、砂の感触を楽しんでいた。
  - ・後半になると砂山に興味を示さなくなったので、砂山をスコップで崩すと、柔らかくなった砂の上に乗る、感触の違いを楽しんでいた。

## ○第六回 砂と光

### 3.活動のために準備した素材や道具、環境の設定

- ・光テーブル
- ・ふるいにかけて砂場の砂
- ・パーテーション



### 4.活動実践<活動の内容>



・指一本で砂を触ってみると下から光が見えるのに気づいた



・グルグル描いているとたくさんの光が見えるようになった



・「ブルドーザーだよ」と言いながら砂を集めている



・たくさんの砂を集めているうちに山を作りはじめ、遊びを発展させていく



・上からだけでなく、横からも見えることを発見し保育者に知らせていた

## 5.振り返り

- ・今回のグループ分けが、上手くいったようだった。
- ・すみれ保育園の研修に参加し、それを参考に室内を薄暗くしたことで、活動に集中し探求できていた。
- ・活動を始める前、いつもと違う薄暗い室内に、子供たちから「何だろう?!」と声が上がった。
- ・入室し光テーブルを前にすると目を輝かせ、友達や保育者に「見てみて!」と共感する姿があった。
- ・各グループとも最初のきっかけを作る子がいて、砂を触りだしたり光に気付いたりしていた。
- ・最初は、指でツンツン→指一本でグルグル→両手で遊びだす…と遊びが発展していく様子が見られた。
- ・普段、室内で砂遊びをしないので、床に落ちた砂の感触を手足で楽しんでいた。
- ・いつもと違う雰囲気嫌がらず、全員が砂に触れることができ、一人ひとりの小さな発見に、大人が気付くことができた。